

鳥取県南西部に位置する日野町は、昭和34年の人口約9000人をピークに減少し、現在は約3000人である。少子・高齢化、過疎化が進行する林業中心の山間部の町で、根雨地区は、官公署その他店舗の集積する日野町の中心部である。

### 鉄山地として繁栄

根雨地区は出雲街道の宿場町として栄えたが、町の礎となったのは「たたら製鉄」である。中国山地のたたら製鉄は鳥根具出雲南部で盛んであったが、鳥取県でも日野川流域が鉄山地として栄え、700年前から鉄が生産されていた。

江戸時代に需要が高まり、1779年、根雨の豪商、近藤家が製鉄事業に乗り出し



製鉄事業で一時代を築いた豪商、近藤家の屋敷

## ～文化的歴史的所産を巡る～ 残したい情景

第38回 鳥取県 日野町



一般財団法人 日本不動産研究所

だが、近藤家は日野町内に61カ所の鉄山と78カ所の製鉄工場を経営していた。近藤家住宅は根雨地区の街並みの一角にあり、主屋をはじめ複数の土蔵や離れが残存しており、屋敷構えが良好に保存されている。県内でも二階座敷を持つ最古例で、学的にも重要である。明治期に入り、輸入鋼による鉄価格の低下で、多くの製鉄業が撤退した中、近藤家は緻密な経営努力、技術改良により大正期まで事業を継続した。

### 「たたら製鉄」が礎の根雨地区

## 癒やされる情景を後世に

た。明治7年には中国地方の鉄の生産は全国の96%であっ

### オシドリの生息地

山陰合同銀行旧根雨支店の寄棟洋風建築は、近代以降における根雨地区の繁栄を偲ぼせる。老朽化のため、平成30年2月に国道沿いに移転し、建物は、日野町が銀行から無償譲渡を受けた。この隣には、参勤交代で大名が泊まった本陣の門が残っており、周辺の歴史的建造物との相乗効果を生かせるよう有効活用を検討中である。

### 根雨地区の街並みの背後、

高台に建つ日野町歴史民俗資料館は、昭和15年に「根雨町

旧根雨支店の隣に残る本陣の門



築80年の日野町歴史民俗資料館



に見ることができる。

### 国内外に発信を

地方に残る歴史と文化的特性及び豊かな自然は、その地域の人々には当たり前かもしれないが、外部から訪れる人々には魅力的な文化的、歴史的所産である。過疎化が進行している地方の町村にとって、厳しい時代が続くが、このような癒やされる情景を残し、次世代に伝えていくことは重要である。多様な情報を発信できる時代であり、このような魅力的な情景を日本全国及び海外に発信すべきである。根雨は全国的に知られた観光地ではないが、のんびり山陰を回られる方には是非立ち寄ってほしい町である。

根雨地区はオシドリの生息するまちとしても有名である。仲の良い夫婦に例えられるように寄り添う姿が愛らしいオシドリ。長年の餌付けの努力で毎年11月上旬から3月下旬にかけてシベリア東南部から根雨に飛来する。岸辺にある観察小屋からはすぐ間近



繁栄を偲ぼせる寄棟洋風建築の山陰合同銀行旧根雨支店

(鳥取支所／不動産鑑定士・向井伸)